

遠征なる説

新天地を看破する能はざるの癖を養ふに至れり、今日に至ても尙ほ此の癖を全く拔き去る能はずと雖も、近時二三者の或は南洋群島、濠洲等に渡航し、或は墨其哥、南亞米利加等に注目し、或はサイベリヤ鐵道の影響等を論ずるあるを見るは、我國民が多年の習癖を脱して遍く大塊上に心を用ひんとするの徴候なりとすれば、聊か悦ぶ可きか如し、然れども遠く前方の歐米を見詰めて、頭を轉じて近く後方を見ず、即ち亞細亞大陸を見ず日本海を見ざる習癖は、地理、形勢より起れる我が半面開化の傾向をして更に甚だしからしめ、太平洋海岸一帯の地方と日本海岸一帯の地方とをして、同じ國同じ時にありながら、全く面目を異ならしめたるの働きを助けたること疑ふ可からず、試みに太平洋海岸地方の繁榮と日本海岸地方の不振とを比較し、而して其原因を探求し見よ、獨り地理上の形勢より生じたるものにあらずして、國民對外の習癖與て力あるを

知らん、然れども變化の時は來らんとす、我國民の輕々看過したる亞細亞大陸は活動し、寒濤渺茫帆影を見ること稀なりし日本海は、世界の船舶を浮ぶるに至らんとす、言ふ迄もなくサイベリヤ鐵道の影響によりて此の如くならんとするなり、サイベリヤ鐵道若し一度び日本海の西岸に達すれば、歐洲の旅客、商品、文明等は重に日本海を越へて日本に來ることとなるべく、且つサイベリヤ鐵道とカナダ鐵道の連絡線は、自然に日本海、津輕海峽、太平洋を横ぎりて生ずべく、ニカラガ運河より生ずる一線は南方より日本海に入り來るを得べきか、ろの他支那、印度、南洋よりの船舶の新に日本海に入り來るもの多かるべく、總て是等の効果に因りて日本海は將に東方の地中海たらんとするなり、否な今日の地中海よりも一層重要な海面たらんとするなり、然らば則ち、我國民殊に日本海岸地方の人士は、今より日本海を經營す

遠征なる説

遠征なる説

の○壯○圖○ある○を○要○す○、○千○頃○萬○豊○の○煙○波○、○東○は○日○本○島○の○岸○を○洗○ひ○、○北○は○北○
 海○道○及○び○サ○ガ○レ○ン○島○の○岩○を○打○ち○、○西○は○サ○イ○ベ○リ○ヤ○の○廣○原○に○連○な○り○、○南○朝○
 鮮○對○馬○の○濱○よ○り○打○寄○す○る○も○の○は○、○是○れ○豈○に○日○本○海○の○形○勝○に○あ○ら○ず○や○、○今○
 に○於○て○其○四○面○の○土○地○、○氣○候○、○物○産○、○商○業○、○人○情○、○風○俗○等○を○實○地○に○探○檢○精○
 査○し○て○、○他○日○の○活○動○に○備○ふ○る○は○豈○に○急○務○中○の○急○務○に○あ○ら○ず○や○、○千○萬○里○外○
 遠○征○は○俄○に○望○む○可○か○ら○ず○と○す○る○も○、○濤○聲○汝○が○枕○を○撼○か○す○程○に○近○き○日○本○海○
 の○遠○征○位○は○、○如○何○に○盤○居○的○國○民○と○雖○も○能○く○す○可○し○と○想○は○る○、○我○輩○は○將○來○
 の○日○本○海○を○論○じ○て○、○我○國○民○殊○に○日○本○海○岸○地○方○人○士○の○、○此○の○方○面○に○於○け○る○
 遠○征○的○運○動○如○何○を○見○ん○と○欲○す○、

異郷の風雨

言ふ勿れ書生文弱事に堪へずと決然身を世界各人種競争の間に
 投じ眞黒になりて生活の激戦を爲し居る者現に太平洋の對岸に
 多く中には彼の地球を我物顔する白人と闘て一步も退かず腕一
 本より働き上げて數萬の金を握りたる者もあり其の事未だ偉大
 と云ふ可からざるも萬難を排して突進する企業的勇猛心は自力
 に衣食することすらも面倒なる薄志弱行の青年と漫に白人の勢

異郷の風雨

(二)

力當る可からずと妄想して尻込する淺見小膽の識者と共に少なからざる今日に於て豈に壯ならずとせんや余輩は先づ米國太平洋海岸地方の社會及在留本邦人一般の概況を記し而して一群の青年が經歷したる生活的戰爭の實景を描くべし

生活の激戰場

四十余年前のカリフォルニヤは山河荒涼殆ど人影を見ずラットルス子キ(響尾蛇)草に鳴き熊羅森に躍る廣原にしてサンフランシスコは物寂しき西班牙人の一寒村に過ぎざりしなり然るに墨西哥戰爭纒に終り此地方一帯新に合衆國の版圖に歸したる條約文の墨痕未だ乾かざる時マルシヤルと呼ばれたる一の土方人足ありけりサンラメント河邊の水車工事に雇はれて地を掘り居たる時何氣なく見下す足もどに全世界の人氣を狂はす

(三)

程の大發見を爲したり目に觸れたるは黄金の小片塊驚喜に驅られて又掘れば又現はるゝは最貴礦物茫々幾百千方里カリフォルニヤの土皆金なりとの報は忽ち鹿叫山を越へて米全州に飛び更に大西洋を渡りて歐羅巴に傳り早くも地球の全面に知れ渡り人の慾情はバット燃へ立ちて一攫萬金の快夢に逆せ上れる動物我先にと世界の隅々より驅け出したり當時は路もなき北米大陸の大山廣野を千里も一里と横きり來る者引きも切らずサンフランシスコは千八百五十年の暮迄に人口一萬五千の町となり同五十二年の末には二十五萬余の逐利的冒險者を集むるに至れり金礦の發見が斯る非常の勢にて各國各種の人類を喚び寄せたると共に東洋及南洋との太平洋貿易も漸々に開けたれば資本家勞働者は八方より洪水の如く押し寄せ來り見るゝカリフォルニヤを始め太平洋海岸地方に黃白赤黃諸人種雜沓の大生活場を作り出しサンフランシスコの如きはマルシヤルが金

(四)

塊發見の頃に生れたる者の頭髮未だ白からざる間に居然米國屈指の大都市となれり故郷を去り父母に別れ妻子に離れ海を渡り山を越へ猛獸毒蛇と闘ひ瘴煙毒露を冒し人間萬種の危難痛苦を意とせず生命を犠牲に捧げて迄も黄金の神の御光に浴せんと群り來れる者共は云ふ迄も無く何れも生血に餓へたる虎の如く世界中最も野蠻的勇氣に富み最も強慾酷貪の動物のみなれば其の生活競争の殘忍猛烈なるは魔鬼の惡戰の如く元來殺風景なる米國社會の中に在りても太平洋海岸地方は最も殺伐なる生活の激戰場となれり

此の激戰場には地球上の國民と云ふ國民種族と云ふ種類何れも多少の兵士を出さざるは無く千種萬様の言語、服裝、習癖、信仰等等時々刻々衝突して優存劣滅の勢頗る激烈なること言ふ迄も無く人々皆特殊の長所を揮て縱横奮闘する外無きより桑港邊の勞働者を見れば支那人の洗濯業と

野菜耕作日耳曼人の酒屋、以太利人の魚屋、愛蘭土人の書記會計方、マレー人の靴磨き、日本人のボーイ、瑞典、諾威人等の水夫、亞非利加黒奴の給侍人と云ふが如き關係自然に生じ來れり是れ獨り勞働者に於て然るのみならず千百の人事皆な此の趣きあることなるが斯くして出來上れる社會の殺伐慘憺たる光景は下に記するが如し

金力と腕力

向三軒兩隣の手前をかねては出一ツ踏み殺してもオ、可哀ろうにと口に泣く事は屹度忘れざるも人の知らぬ所にては我が血を分けし赤子の顔に濡紙を張りて是が殺潰しを減らす秘訣なりと自慢する者もあり至極の見榮坊にして其實至極の横着者なる人と名の付く動物中にも取り分け私利我慾に凝り固りたる強者共が各本國社會の制裁禮儀作法道德宗教等の鐵

(五)

(六)

網を脱け出で世間を憚るの氣苦勞露程も無く自由自在我儘勝手に獸類的元氣を揮ひて金を攫ふんとする一種奇怪の新社會北米の太平洋海岸地方は萬國萬様の役者が各々得意の罪惡を演ずる一大活劇場なりと云ふも可ならず現世紀の人類より總ての裝飾を取り除けば如何の醜狀を呈す可きかの疑問を決する一大實驗室なりと云ふも不可ならず此の新社會に於ける陰陽の二神は金力と腕力なり此の二神の前にはア、全能の天父よと謳はるゝゴッドも誠に氣の毒千萬なるものにして唯弱いものイジメの辯護者として調法がられ其名を引き出さるゝ位に過ぎず信者の多くは何を信するや當てにならず教會堂を便利なる會合所と思ふ年少男女あれば木戸錢無しの寄席と心得る職人あり耶蘇が之を見れば確にモー二三度磔柱に掛るの必要を感ず可し政治家は金にて胸の邊を押せば注文通りの音を出すこと鳴き人形の如く裁判廷は賽錢の多寡によりて御利益の違ふ神社

(七)

に似たり右の手にて人を擲り左の手にて巡査に金を遣れば無理も大威張りにて通り人殺しも賄賂の妙薬を用ゆれば我頸を繋ぐ地獄女を買ふに前金に渡す客は取られたる許りにて逐ひ歸され金儲けの上手なる支那人は腕づくにて敲き出さる金の光を輝さざれば目の前の盜賊も捕ふるに由なく富める悪人は政府の探偵を手先に使ふ謝金少なければ勝つ公事も負け藥禮の如何によりて醫者のヒ加減變る錢を賭けるが故に大統領選舉も面白く賭博場なるを以て酒屋は賑かなり要するに此の社會には政治無きにあらず金が政治を施すなり法律無きにあらず金が法律を作るなり裁判無きにあらず金が裁判を下すなり警察無きにあらず金が警察を受持つなり人情無きにあらず道徳無きにあらず宗教無きにあらず然れども金によりて動靜死活し金力及ばざる所腕力之を補ふ金力を經とし腕力を緯として組成せる社會は聖賢も貧乏の上に無力なれば相手にする者無く火付け盜

(六)

網を脱け出で世間を憚るの氣苦勞露程も無く自由自在に我儘勝手に獸類的元氣を揮ひて金を攫ふんとする一種奇怪の新社會北米の太平洋海岸地方は萬國萬様の役者が各々得意の罪惡を演ずる一大活劇場なりと云ふも不可ならず現世紀の人類より總ての裝飾を取り除けば如何の醜狀を呈す可きかの疑問を決する一大實驗室なりと云ふも不可ならず此の新社會に於ける陰陽の二神は金力と腕力なり此の二神の前にはア、全能の天父よと謳はるゝゴッドも誠に氣の毒千萬なるものにして唯弱いものイジメの辯護者として調法がられ其名を引き出さるゝ位に過ぎず信者の多くは何を信するや當てにならず教會堂を便利なる會合所と思ふ年少男女あれば木戸錢無しの寄席と心得る職人あり耶蘇が之を見れば確にモー二三度磔柱に掛るの必要を感ず可し政治家は金にて胸の邊を押せば注文通りの音を出すこと鳴き人形の如く裁判廷は賽錢の多寡によりて御利益の違ふ神社

(七)

に似たり右の手にて人を擲り左の手にて巡查に金を遣れば無理も大威張りにて通り人殺しも賄賂の妙薬を用ゆれば我頸を繋ぐ地獄女を買ふに前金に渡す客は取られたる許りにて逐ひ歸され金儲けの上手なる支那人は腕づくにて敲き出さる金の光を輝さざれば目の前の盜賊も捕ふるに由なく富める悪人は政府の探偵を手先に使ふ謝金少なければ勝つ公事も負け藥禮の如何によりて醫者の七加減變る錢を賭けるが故に大統領選舉も面白く賭博場なるを以て酒屋は賑かなり要するに此の社會には政治無きにわらず金が政治を施すなり法律無きにわらず金が法律を作るなり裁判無きにわらず金が裁判を下すなり警察無きにわらず金が警察を受持つなり人情無きにわらず道徳無きにわらず宗教無きにわらず然れども金によりて動靜死活し金力及ばざる所腕力之を補ふ金力を經とし腕力を緯として組成せる社會は聖賢も貧乏の上に無力なれば相手にする者無く火附け盜

(八)

賊人殺しも巧に此の二者を動かせば人の崇拜を受く上流の帝王は富豪にして下流の主権者は労働者なり此の兩者の意向命令には何者も抵抗する能はず何れの社會にても穿て其裏面に至る時は幾何の咄々怪事を認めざるなしと雖も此の新社會の如く金力と腕力との丸出しなるものに至りては殆ど其の比類無し今二三の事實を掲げて全豹を知るの資となさんか

ワシントン州は遠からず前喫煙禁止の令を施き煙草を吹く者にも賣る者にも罰金を課する事となせり斯る偽善的法令の實際に行はれざるは言ふ迄も無く煙臭舊の如く鼻を撲つは怪しむに足らざれども當初此法令の必要を主張したる政治家等の内心は之を以て米全洲の煙草社會を驚かし巨額の賄賂を攫まむ計略なりしと聽ては正直なる日本人杯はヤツキとなりて腐敗とか何とか囂しく喚き立つる所なれど其處は金腕世界の住民何とも思ふ者無しキムポール始め二三の煙草會社は又しても貧乏政治家のユ

(九)

スリ手段かと早速手代を派して金轡を啣せんと謀りたるが其の事の少しく期に後れたる爲め喫煙禁止の法律はしよう事無しに發布せられたるなりと云ふ此の社會にて尋常の政治家を取扱ふこと我邦人が破れ壯士を見るが如くなるも亦尤の次第ならずや又一の支那人あり土人と賭博の爭論を起し土人を毆殺して屍骸を河に流したること其筋の探知する所となり獄に囚はれたり支那人は例の如く金にて首尾よく無罪放免の言渡しは買ひ取りたれども斯くと聽きし土人の仲間は大に憤激し相語ふて支那人の獄門より出て來る所を要撃し目も當てられぬ慘酷の手段にて殺害したり而して警察署裁判所等にては明に右の要撃の企てを探偵し居たるも金にならぬ事なれば平氣にて其の實行を袖手傍觀したるなり又レンチ法と云ふものあり家畜を屠り婦女を姦し人を殺す等の惡事を行ふ者あれば村民相集りて手にく刃器を携へ牢獄を襲撃して右の罪人を奪ひ出して之

を引き廻して有らん限りの侮辱を加へたる後罪によりて撲殺、縊首、銃殺等の刑を行ふ先年一黒奴白人の暴虐に激し意越返しとして其の小兒を殺したるに加へたるレンテの如きは稀有の慘酷にして先づ黒奴を縛り上げ群衆代るく焼火箸にて足先より刺し始めて次第に身體の上部に及ぼし黒奴は我が血肉の燻る臭煙に咽びて息絶へたるを見て喝采したりと云へり文明第一の民人にして博愛の上帝を仰ぐと自ら稱する白人中にも斯る野蠻の振舞を爲すものあり此の新社會に於ける人氣の暴らきこと想ひ見る可し其他人間の想像し得らるゝ萬般の罪惡は紛々として日夜に行はれ強姦、姦通、人殺しの如きは視て日常の茶飯事となすの有様なり金と腕とが全能の天地に世界中の逐利者雜居するの致す所是非も無き次第と云ふ可きか

茲に又此地方住民の氣質を説明す可き一個小説に似たる奇談ありワレン

トン州のシアートル近村に一人の農夫住みけり富めると云ふにはあらぬを額に汗の働さにて妻諸共無事に其日を送りしが一昨年或夜の事と作曲者あり農夫を銃殺したる上其家に火を掛けて立去りたり短銃の音を聴くと間も無く火光を認めたる近隣の者共が驚きて駆け附けし頃には猛火は早くも家を焼盡して跡に残るは主人の白骨のみなりけり斯る變事の珍らしからぬ處なれば間もなく人の噂も收りしが農夫は五萬弗の生命保険を有し居たること警察官の耳に入るや否や其の妻と豫てより食客に置きし若者とを拘引し若しや五萬弗の金に目眩みて二人共謀の上農夫を殺したるにはあらぬかと疑ひ百方吟味を遂げたれども証據の擧らざるに苦みつくゝある際一のドクトルあり農夫の白骨を検査し長短大小頗る彼が骨組に似寄りたるも是余程古き屍骸を焼きたるものに相違無しと鑑定したりシテ見れば農夫が死したる眞似して五萬弗を欺き取らんと謀りたるもの

異郷の風雨

(二-)

かと探偵は八方に飛で其踪跡を探りたるも知れざるに飽み果て居る中農夫署名の書狀一日探偵に届きたり文言に據れば案の如く彼が奸計にて己の身材に似たる亡友の屍骸を掘り家に運び行き臥床の上に置きて自短銃を放ち自ら家を焼て自ら變死を装ひたる旨を白狀し且探偵如何に嚴密なるも我は到抵手の届かぬ地に在れば此後の心配無用なる可しとの文句さへ添へありしと云ふ此の事頗る人の注意を惹き早速演劇に仕組みて大當りなりしと然れども總ての社會には暗黒光明の兩面あり暗黒の一面を見れば此の社會の雜風景なる以上記するが如くなるも一たび光明の面より觀察を下す時には企業的性情の壯快雄偉なる實に日本の如き舊國に生れし者をして驚殺せしむる者あり

爪は脱け落ち肘は爛る

(三-)

花の香に心も匂ふ春の夜の更けるも知らず語りあふ別れし後の浮き沈み定め無き世に變らぬは故郷人の誠かな八重の潮路を歸り來て親同胞の恙無き笑顔を見れば幾歳の旅寢の憂さも忘らるゝ、窓を打つ夜風に郷國の夢忽ち破れ見廻せば身は十余時間の勞働に疲れ果て、豚小屋の如き部屋に横り衣薄く腹餓にて満身の熱血も冷め果て客心悽然愁緒絶つ可からず如何にして此境界を斬り抜けんか如何にして平生の志業を成す可きか、ヨ身一つを無き者と思ひ諦め斃れる迄は遣て除けんと明治十九年の三月頃桑港の市内に飢餓と云へる大敵に逐ひ廻はされつゝありし五六の日本青年等は人生最苦極痛の地より希望の天に向ひ奮ひ立てり正に是れ昨夜閑夢落花、可憐春半不歸家の情境天涯遊子の苦心は東京の風流に銷磨し昨日は上野今日は向島と花に酔ひ月に迷うてウツラ〜と有爲の日を過す氣樂なる少年の知らぬ所なる可し

異郷の風雨

異郷の風雨

(四一)

ワシントン州シアートル地方は企業熱今正に熾にして資本家労働者は八方より馳集り景氣頗る活潑なりとの飛報は此頃續々桑港に達したり之を聽ける五六の青年は是こり決死の力量を試む可き好戰場なれとの見込を付け着のみ着の儘一錢の資金とては携へず一箇の頭二本の腕のみを頼みとして飄然としてシアートル市に入り來れり來て見れば聽さしに優る非常の光景目の及ぶ限り岡となく谷となく森となく濱となく到る處天套に墮り千種萬様の労働者が蟻の如く群がりて右往左往に馳け廻る有様凄じとも何とも言様なく固より未だ市街の形を成さざれば宿屋の設け杯は無し何處に如何して眠食すべきかの難題は先づ青年等を襲ひ來れり或樹陰の余地を見出して席を敷き古ツツクを張り雨露を凌ぐも名のみなる掛小屋を設へ辛じて身を落付けてホット一息麵麩をカジりて胃を充たし茲にいよいよ北緯四十度の寒風冷雨を冒して生活の戰場に打出つることとな

れり

仕合せなりしは勞力の拂底是れなりシアートル市新開の警報四方に傳はると共に我先きにと來り集れる労働者は雲に似たるもナカ〜急且つ大なる需用を充す能はず書生上りの瘦腕にても三四十弗の月給を得るに難からず技術ある者は七八十弗より百二三十弗の報酬を握ること容易なる勢なれば青年等も早速働さ口を見出したれども日本人の上に落ち來る仕事は何れも皿洗、料理番等にして火水を相手の働き困難痛苦云ふ可からず二三ヶ月の中に指頭腐爛して爪脱け落ちたる者少なからず甚たしきに至りては肘より先きは残らず皮膚爛れて赤肉を現はしたるもあり斯くして取れる三四十弗の月給日本にては中等社會の収入なれども生活費高き同地方に在りては食て着て寐る外に甘い酒を飲むことも覺束なき金額なれば如何にもして此中より獨立商業の資本を絞り出さんとして屈せず撓ま

(五一)

異郷の風雨

す勇進したり

(六一)

資本金四十弗

兎角する間に四十弗の金纏りぬ是れ仲間のものが各肉を裂き骨を削るの辛苦を忍びて三弗五弗と積み上げたるもの吹けば飛ぶ程の金高なれども獨立商業の第一石之を土臺に段々富を築き立つ可しと同志何れも喜び勇み早速安料理屋を開くことに相談一決したり當時シャートルの物價非常に高く料理の如きは最粗惡の一食二十五錢を下らず然るに皿洗ひ料理人等の稼業によりて臺所通となれる仲間の勘定に據るに一食十五仙となすも尙は相應の利益ある筈なり突然十五仙料理店を始め數でコナスの商略を以て白人を驚し呉れんと謀りたり

仲間皆な相變らず雇仕事に働き手明きのもの代るく店に坐ること

なし一の差掛け小屋様のものを作り皿、ナイフ、フォーク、卓子等の古きものを備へ付け肉を細碎する道具なき故日本流に庖丁にて切り裂きレンチ（炙肉臺）もなければストロップの上にて肉を炙りダイニングルーム（食臺）と云ふも僅に十余人を坐せしむ可きむさくろしき處なりしかば白人の料理屋共は彼れジャップ何をか爲さんとて氣にも止めざる様子なりし

水は低きに流れ客は安きに就く是れ今古東西時と處は異なれど變らぬ物理人情の大原則、之を頼みに現はれたる十五仙料理、場所が悪くも室は不潔くも皿は缺け椅子は破れたるも味は二十五仙食と同様なれば十錢安の引力に何人もツマツタものにあらず客足は日一日に繁く十五仙食の評判バット市中に廣りて來客一日平均三百人内外あり室内常に充滿したれば屋外に長椅子を設けて暫らく其處に待たせ置き先様はお代りの法にて

(七一)

異郷の風雨

(八一)

順次食堂に入れる仕掛けとなせり而して店の者と云へば僅に二三名の青年にて萬事を遣り廻し居ることなれば驕慢るる碧眼人も舌を捲て驚嘆せり
儲けは虚言の様に湧き出せり勢に乗じて更に資本五十弗の新店を開き間も無く數百弗を以て器具体裁も稍や備り食堂も四十人を容る可き料理屋を始めたり是れにて都合三軒の十五仙料理店となり何れも來客引きも切らず

日本人は闘犬の如し

シアートルとは元この地方に君臨したる土蠻酋長の名にして今は其骨を埋めたる青山も碧眼兒の蹂躪する所となり昔に變る世の有様後に残れる一族も人種の生存競争てふ情容數もわらくしき戰に打負けて元氣活力

(九一)

異郷の風雨

日々に衰へ遠からずして滅絶す可き非運に會し榮華の夢は覺め果て亡國の跡吊ふ人も無けれどシアートルの名は廣く世界に知れ渡れり此土蠻の容貌体格は日本人に酷似し其の言語も亦日本語に類するもの多く宗教上の儀式も似寄りたる所あるを以て推せば往古日本人が北の方ベリンダ海峡を越えてアラスカに入り漸く南して此地方に來住したる者なること殆ど疑ふ可からず斯く思へば今人種滅絶の末路に就き白人に禽獸視せらるゝ哀れなる土人を見るにつけ聞くにつけ是れ我同胞の成れの果てかと思へば自ら悲憤の涙も湧き咄碧眼奴來れ更に戰はんと青年は覺へず切齒扼腕せり却説十五仙料理店は日に月に繁昌し店も三軒となり仲間は上景氣に勇み立ちて一日十三時間烟草のむ暇無く立働さ目が回る程に多忙なる中に最も煩さきは喧嘩搏闘なりき當時市中は浮浪の惡徒を以て充されたるに警察の取締行届かざれば全く強い者勝ちの世界となり暴徒の兇

異郷の風雨

(〇二)

行日夜絶へず安料理店は重に是等の徒を相手とすることなれば日本人の体軀の矮小なるを侮り無錢飲食を爲さんとする者多く紛争は二六時中引續くが中に時として大喧嘩を起し頭を割り腕を敲き折る杯の事は珍らしからず日本人は常に敏捷精悍を以て勝ち柔術角力の法を用ひ不意に撲て巨漢を倒したる上鐵棒を頭上に閃めかし熱拳を眼邊に飛せば大低の者は降伏するなり斯くして辛くも店の規模を保ちたるが長日月の間に此方にて敗を取りたる喧嘩は僅に四五回に過ぎざりければ暴戾なる白人等も遂に日本人はブルドッグ(闘犬)の如しとて濫りに喧嘩を賣る者少なきに至れり右の手にて闘ひながら左の手にて商賣を爲さざる可からず憶へば至尙奇態の境界なりしなり

一日の來客二千人

意外の大當りにて儲けは氣味の悪き程殖へ來りたれば少しも猶豫せず更に一大料理店を開きたりしレイモンド、レストーラント是れなり今度は非常の大仕掛けにして元芝居座なりし間口百フィート奥行百フィートの家屋を借入れて体裁を直し四個の大電燈を點じ瓦斯燈を以て之を補ひ爰肉臺の如きは巨大なるものを遠く柔港より取寄せ食料品は悉く卸賣にて仕入れ琲珈は大樽にて買ひ雞卵の如きは一時に五千函(二萬餘個)以上を買ひ食料品仕入れの多きこと當時卸賣商の肩を並ぶるもの僅に二三軒に過ぎず食堂の裝飾器具の整頓日本人の商店としては實に珍らしく來客の數一日平均二千人皿の破損費一月六十弗、瓦斯代一月七十弗を越へたり以て其盛況の一斑を知り得可し

(一ニ)

二三年前一文無しにてシアートルに入り込みし青年は今この大店頭に立て自ら顧みるに及んで恍然夢の如き感想ありき

異郷の風雨

(二二)

郡司大尉の短艇航海と孰れぞ

久しく艱難を友として飽煖の味を忘れ永く企業國の空氣を呼吸して退守の事を知らざる青年等は今此の得意の境遇に立て意氣益す昂り更に手を北の方アラスカに擡げて漁業の巨利を占めんと謀り先づ實地調査の爲め探檢船を出すことに決したり探檢船と云へば立派に聞ゆれども其實二千餘圓にて買ひたる一隻の古短船に決死の若者五六人打乗りコンバス海圖及び少許りの食料を備へたるのみにて怒濤狂瀾一千余里のアラスカ指して出發したるは明治廿二年の春なりき海上英船に逢ひたるに其船長は危険も危険好て死に行く様なる企てを聴て膽を冷し航海者の情誼として看過す譯に行かざれば是非共斯る必死の冒險は思ひ止り我船に乗りて歸られよと懇々勧めたれども固より覺悟の我々には御信切も却て迷惑なりと

(三二)

斷り其儘北洋に向て漕ぎ去れりムチャと言へばムチャなれども郡司大尉の短艇航海に舌を捲ける都人士は之を聽て何とか評する短艇は無事に目的地方に達したり航海中の千艱萬難は茲に記さざれども想ひ見る可し一行は種々探檢したる末一半は英領コロンビヤの極北シンブソン港に止り一半はシアートルに歸り來りアラスカ漁業會社が年々三百萬弗内外の純益を博しつつある事アラスカ獸皮會社が一年二百萬弗の借料を米國政府に納めながら尙ほ莫大の利益を占め居る事日本人にして千島の漁業權を本國政府より得るならば充分の資本を下して協同漁業に従事せんと富豪の白人某に勧められし事アラスカ漁業會社の収益は重に千島の極北とカムチャツカ近傍より上り來ることなれば日本人にして此處を占領すれば同會社の利益大半を奪ひ得可しと説かれたる事クインチ島にて直徑七尺以上の杉柱の良材無數あるを見て垂涎したる事アラスカ沿

異郷の風雨

(四二)

岸にて金鑛を發見したるも資本ある白人に占領せられし事等を報告シアラスカ漁業の大に見込あることを確めたれば雄心勃勃々夢は早くも北天に向て飛べり

日本人仲間より四千弗白人より六千弗合せて一萬弗の合資會社は忽ち生れ出でたり三十六噸の風帆船チャーレンヂ號を四千弗にて購入し久しく横濱に在りて半は日本人化する英人團兵衛(本名ダビデ)を船長となし十數名の日本人之に従ひ前途無量の希望を載せてチャーレンヂはアラスカの耕作を爲す者あり或は養豚を試みる者ありて何れも充分の望みあり一方にはシアートル市は日に富み月に榮へ明治十九年頃全市の地價一億萬弗内外なりしが翌年は増加して二億萬弗となり同廿一二年頃には一躍して五億萬弗となりソレより一二年後には一フートの面積二千弗の土地を

見るに至れり實に世界比類稀なる景氣にして此の大舞臺に於て巧に立廻らば鉅萬の富を作らんこと瞬く間なりとみ思はれける

残るは一片の煙のみ

然るに天亦人の企業逐利飽くなきを嫉みたるか一朝狂風回祿を誘ふてシアートルを襲ひ來り天套と木造の家屋より成れる大市街を一日餘にして焼き盡しぬ我青年等が多年の辛苦經營に成れる資産も夢の如く消亡失せ残るは一片の煙のみ

(五二)

青年等は又元の木阿彌となれり彼等はこの最大失望に逢ふて如何せしか記者は尙は一日の紙面を費し彼等が一難十倍の勇氣を奮て舊業を回復し端なく白人同業組合と戦を開きて遂に勝利を占めたる顛末を記して此編を結ばんとす

(六二)

これはくご許り

シアートルの大市が忽焉鳥有に歸したる變災をば夢にも知らぬ風帆船チ
 ヤーレンヂは寒風冷霧を衝て益々北へくご進みたりしが同船の乗組員
 は皆な一方には會社の株主なるのみならず何れも冒險決死の者共なれば
 個々の權勢なかく熾にして或は千島に航して臘虎を獵せんと云ふ者あ
 り或は鱈漁業の危険少くして收穫の多きに若かずと説く者あり或は直に
 イレデヤンポイントに進航し萬死を冒して奇功を成さんと主張する者あ
 り紛々容易に決する能はざりしが遂に臘虎、海豹を獵することとなり北
 洋の波濤に漂ふこと數週日の間に臘虎六十三頭海豹三百余頭五六千弗の
 獲物を載せ意氣揚々としてシアートルに歸り來れば圖らざりき一面茫漠
 の燒野を見んとは襲には飛龍昇天の勢ありし同志者の商店は消へ失せて

(七二)

訪ふ可き迹もなく其春互に成功を祈りつゝ袂を分ちし仲間の人々は何処
 に在るか尋ねれば焼け残りたる樹の下陰に三々五々乞食の如き体裁に
 て天套住居なし居たるを見出したる時には唯是れはくご許り茫然自失
 之を久ふしたり實に是れ明治二十二年八月の事なりき
 災は唯是のみならず仲間の一人が思ひ立ちて飼養したる豚は漸く繁殖し
 て二千餘頭の多きに至りたるのみならず豚肉の市價頗る騰貴して一片十
 三仙以上に及びしが俄然猛烈なる傳染病の襲撃する所となりて豫防の暇
 も無く數日の間に數十頭の種豚を残したるのみ他は悉く斃死したり運の
 悪い時は何事も悪いもの榮枯盛衰瞬間に變じて昨日の金穴今日の素貧漢
 となり弱き人間をして首を縊るの得策たるを感せしむるは斯る場合に在
 るならんと仲間の者は話し合へり

(八二)

自ら信するの力量

自己の働きに依りて成し得たる事業は人間意外の災害の爲にメチャクに破らるゝも又自己のカーツに頼りて再興し得可し唯この一箇自信の念は百萬の資金よりも強大なる援軍を失望の孤城に苦める青年仲間と與へ青年等は茲に満身の勇氣を振ひ再び起て生活の戰場に出馬せり
 レイモントは新の一字を加へて再現し續てスター、カルフォルニヤ、ヨコハマ、シルバースター、メイン、ヤマト、ミカド等の日本人料理店開かれ最盛の時は其數十八軒の多きに及びたるが最後にダルマ、レストーラント興れり就中新レイモンド繁昌を極め一ヶ月の家賃三百弗を拂ふて平氣なる有様にて其勢舊時に倍せんとする折柄艱難は又ぞる意外の邊より湧き出でたり白人の料理店との競争是れなり

始め日本人が料理店を開くや其規模狭少にして体裁の甚だ見苦しきを見て白人の同業者等は罵て曰く是れモンキー、ビジネス(黒奴的商業)のみと復た意に介する者とはなかりしなり未來の大事業家を以て自ら期する南年等も黒奴と同一視せらるゝ境遇は是非も無く鴻鵠も亦燕雀の笑を免れずと自ら慰むる外なかりしが此モンキーの立廻り敏活にして一躍二躍三躍見るゝ其地位を進め來り白人等此奴油断はならぬと氣の付きし時にはモンキーは既に嚴乎たる商業家と成り濟し巨額の資本を働かして當り易からざる勢を示したり

白人の脅喝手段

白人の同業者等は此勢を見て狼狽し始め虚勢を張りて嚇しくれんとてか日本人の料理店は悉く焼き拂はんと公然揚言したり其理由とする處を問

(九二)

へば日本人は劣等人種にして白人と肩を並べて商業を爲す可からずと云ふに在り此手段は彼等が支那人に施して屢々其功を奏したるものなれば今之を以て日本人の上に擬したるなり我青年等は固より斯る小供をどかしの手段にビクともせざりしが又意外の譯より意外の應援を得て敵に一泡吹かせ遣りたりうは十五仙の安料理は豫てより労働者の氣受け頗る宜しかりしが今白人の同業者等が此安料理を押潰さんとするを見て潰れと料理店に敵對する白人の料理店をば容赦無く焼き拂ひくれんどの氣込を現したり労働者の勢力恐る可き土地の事なれば白人等の第一策は之が爲に脆くも破れたり

彼等は次に料理の値を引下げたり然れども白人の無器用なる安料理の手加減を知らず是れも永持ちせずして止みたり次には一種の同盟組合を設

け日本人の料理店にて飲食したる組合員には五弗の罰金を課する事となしたるが之も差したる効果無く次には問屋を抱き込み日本人の料理店には一切食料品を賣らざる様に謀りたるが實際に行はれず一敗又一敗彼等の手段は愈々激し來り遂に新レイモンドの隣家を借入れ十五仙の安料理店を開きて競争を始めたれども人氣は益々日本人の店に向ひ來る勢を見て彼等は憤懣遣る方無く遂に十餘人の無頼漢を雇て新レイモンドの門前に排列し來客を無理やりに我店に引入れんと試みるに至れり此傍若無人の振舞を見ては最早堪忍なり難く青年等は右の無頼漢を相手取りて法廷に訴へ出でしが是れより裁判官に向て原被雙方の賄賂競争を始め或は勝ち或は負け種々の手段を盡したる一年余の後日本人は終局の勝利を博ししめ世界に向て日本人たる者は白人の間に立て立派に獨立事業を成就す

異郷の風雨

(二三)

るの才智力量あるを示し久しく日本人を輕侮せる白人をして猛然自ら省みるの念を起さしめたり、記者は喜で此大快事を記して以て「異郷の風雨」の篇を結ぶ

大分縣の人河野彌太吉氏は以上記したる青年仲間にして今歸朝して横濱に在り此篇氏の經歷談を聽て記する所多ければ茲に掲げて事實の出處を明にし且つ記者の謝意を表す、若し此篇を讀て尙ほ米國太平洋海岸地方の詳況を知らんと思ふ人あらば氏に就て尋ねらる可し

明治卅年十二月五日印刷
明治卅年十二月十七日發行

定價金貳拾錢

著者兼
發行者

中田辰三郎

新潟市東仲通一番町
第六十五番戶

印刷者

梶 瀧 佐 平

新潟市本町通五番町
第七十七番戶

發行印刷所

自由新報社

新潟市古町通三番町
第七十三番戶



